

- 市民と市長との意見交換会の内容要旨
 令和元年8月21日 川島コミュニティセンター
 テーマ1 地域共生社会の実現に向けて

No	御意見等	回答
1	<p>現状の地域福祉ネットワーク協議会のメンバーがどうしてもコミュニティ協議会、自治会、婦人会、老人会、民生委員が主になるため（リタイアした人が中心）、PTAや子ども育成会など子育て世代の意見は出しにくい状況にある。</p> <p>またコミュニティ協議会に相談というのも、共働き世代は昼間行けないなど、ハードルが高い。</p> <p>地域で若い世代からお年寄りまで気軽に話ができる場づくりが求められる。</p>	<p>地域福祉ネットワーク会議とは別に、ボランティア団体が開催する相談会、あるいは「まるごと福祉相談員（注）」が定期的に相談会に出張していくなどの工夫をして、意見交換会の場をつくるのもいいのではないかと。</p> <p>今後の検討課題とさせていただきたい。</p> <p>注 まるごと福祉相談員は、高松市から委託を受けた社会福祉法人高松市社会福祉協議会の職員で、福祉の専門職（社会福祉士・ケアマネージャー等）である。</p> <p>相談員は、地域へ出向き、住民等からの情報をもとに、複合的な課題を抱えている世帯や個人の包括的な支援を行う。</p>
2	<p>説明のあった地域共生社会が実現すれば、これほどいいことはないと思うが、正直、この会に参加して、初めてこのことを知った。</p> <p>市として、もっと広く周知してほしい。</p>	<p>市として広く周知するつもりである。</p> <p>地域で活躍する皆様の御協力も必要であり、無理のない範囲でお願いしたい。</p>

No	御意見等	回答
3	<p>地域で何かやろうとすると、いつもメンバーが同じで、その人たちの負担だけが増えるという現状がある。</p> <p>昔はもっと地域住民みんなが一緒になれるお祭りといったイベントがあったと思うが、そういうものもなくなり、地域のつながりの希薄化を強く実感する。</p>	<p>今（高松市全体で）自治会加入率が6割を切るという状況である。</p> <p>すなわち4割以上の人が自治会に加入していない状況で、自治会を通じてみんな一緒になって取り組みましようと言っても、実現できない。</p> <p>そこで新しい仕組みとして、地域コミュニティ協議会を主体とした地域共生社会づくりを進めている。</p> <p>そして、コミュニティの一人一人が負担感を感じないよう、それぞれにあった形でうまく参加できるような仕組みづくりが求められる。</p> <p>例えば学校を中心とした行事に参加してもらい、そこで地域共生社会について周知を行いながら地域の集まりへの参加を促す、という努力も必要であり、PTAや子供会といった団体とも協力しながらやっていくことが重要であると考えている。</p>

No	御意見等	回答
4	<p>郊外の自治会には、引っ越してきた人たちが入りたくとも入ることができないところもある。一方自治会加入者が固定化して若い人たちがいなくなり、活動自体やめていこうという現状もあり、自治会を中心としてというのは難しい。</p> <p>自治会に入っていない多くの人たちをどう地域と関係性を 持たせるかが課題であり、何か新しい緩やかな形でできないかと模索している。例えば、地縁というものではなく、子ども、環境といったテーマごとに興味が共通する人たちが集まって、地域コミュニティ協議会もそのような集まりが入りやすくする取組が必要ではないか。</p>	<p>地域コミュニティ協議会制度を立ちあげたのも、まさに、自治会加入率低下を受けてのものであり、企業・団体を含む全ての人を構成員とし、その中で様々な活動を行うよう仕組みを作った。</p> <p>地域の様々な活動は基本的にはコミュニティでやるべきだと考えているが、コミュニティといっても漠然としてよく分からない、会費もなく、メンバー等意識も薄い。</p> <p>婦人会や子ども会といった分野ごとの団体、いわゆる縦割りのコミュニティの存在意義を改めてはっきりしていくとともに、さらにNPOや、趣味などの団体でもいいが、（私は斜めのコミュニティと呼んでいるが、）そういった集まりの活動を入口として、地域とつながりを持つことが大事ではないかと考えている。</p>

No	御意見等	回答
5	<p>地域福祉ネットワーク会議で課題となるのがサービスの担い手である。</p> <p>今地域で活動している人たちに、これ以上やってもらうのは限界がある。</p> <p>そうではなく、地域で福祉のNPOを立ち上げ、福祉に関心がある地域の65歳以上の元気な方々を、(地域の)外に流出させるのではなく、地域の中で雇用することが魅力的だと考えるが、地域で中々NPOについて理解されにくい。</p> <p>地域の中で応援される組織にしたいと考えている。</p>	<p>同じ目的のもとに集まって活動しても、ただ個人単位で行っていると持続可能なものとならないので、地域活動などを非営利団体として行う場合に、NPOという制度が有効である。</p> <p>市としても、多くの人に知ってもらうための講座など行うなどして、広めていくようなことをしていきたい。</p> <p>また、先ほど話のあった元気な高齢者について、介護や保育の現場など人手不足であり、資格が必要とならないちょっとしたお手伝いのニーズもある。</p> <p>そこに元気な高齢者が担い手となれば、現場も楽になるので、そのようなちょっとしたお手伝いをするグループがあれば、さらに地域も良くなると思う。</p>

テーマ2 コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを目指して

No	御意見等	回答
1	<p>利便性が失われると子育て世代は離れてしまう。地域で生まれ育った人が、他の地域に出ていったとしても、そこに戻ってくる地域づくりが重要である（地域Uターン）。</p>	<p>大都市圏からの移住というのも重要であるが、やはり地域で生まれ育った人たちがその土地、あるいはすぐに駆けつけることができる場所に住み続けるための施策が必要である。</p> <p>郊外の人口が減っていく一つの理由は、公共交通などの利便性が低いことだと考えられるので、バスの便数を維持するなどの利便性確保が重要である。</p> <p>コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりというのは、何も郊外からすべて吸い上げて、一か所に人も物も集約してしまうのではなく、各拠点でそれぞれの地域の利便性を上げるための集約化は行うが、公共交通を充実させることによって地域的な利便性を広げていくというものでもある。</p>
2	<p>バス路線について、そのバス停までどうやって行けばいいのか、特に車が利用できない高齢者にとっては大きな問題である。</p>	<p>公共交通空白地帯における移動手段確保策として、地域で話し合っ、地域コミュニティ主体で運営するコミュニティバスなどが考えられる。</p>

No	御意見等	回答
3	<p>高松市の公共交通（電車）について、瓦町まで行き、乗り換えなければならないというのが不便である。</p> <p>バスでもいいので、市域を循環する路線があってほしい。</p> <p>琴電志度線、長尾線、琴平線、それぞれを横に結ぶ路線があれば、この地域ももう少し利便性があがると思う。</p>	<p>現状は瓦町から放射線状になっているが、新駅整備に伴ってバス路線を再編するなどし、つながっていないところ（ミッシングリンク）を埋めていけばバスを回遊させることも可能となる。</p> <p>ただ、すぐにといいわけではなく、10年先、20年先という話にはなってしまうが、やはり長期的な展望を持っていないと、利便性が下がってしまうので、御理解いただきたい。</p>

テーマ1、テーマ2以外で

No	御意見等	回答
1	<p>自分が住んでいる地域では、子どもを遊ばすことができる公園がない。</p>	<p>一校区一公園として取り組んでいるが、御意見として承りたい。</p>